

令和 7 年度 市長記者会見 発言要旨

令和 7 年 10 月 8 日 (水) 開催分

< 開催時間 > 14:00~14:30

< 会 場 > 庁議室 (市役所本館3階)

< 会見案件 > 再発防止について
福井市版 20%ルールの進捗状況
規格外野菜を華麗 (カレー) に変身!!
シニアのためのまんぷく券の配付
障がい者芸術文化祭 2025 の開催
中核市サミット 2025 in 福井の開催
私の福いいネ!ニュース

< 質疑応答 >

【記者】

再発防止策の検討を踏まえて、市長として今回の一連の事件の要因や、再発防止に向けた姿勢をお聞かせください。

【市長】

非常に残念な出来事でした。市民の皆様の信頼を損ねたことを重く受け止めています。今後は、報告書に基づいた具体的な再発防止策を形として示し、日々の業務をしっかりと行うことで信頼を回復していきたいと考えています。私自身も強い覚悟を持って取り組みます。

【記者】

再発防止策の中で、意識改革として「部長昇級時に倫理規程の宣誓や、部長職までの研修の実施」とありますが、特別職は対象外となっています。その理由を教えてください。

【市長】

特別職は、本来研修を受ける以前に範を示す立場にあると考えています。そのため、前回の件は非常に残念に感じています。部長職以上で再発防止に向けた検証を徹底し、責任ある対応をしていきます。

【総務部長】

特別職は地方公務員法の対象外であり、特別職はそれぞれが模範を示すものであるため、対象外としています。

【市長】

今申し上げたとおり、特別職は地方公務員法の対象外ではありますが、職員に対する範となるべき強い倫理観を持っていなければならないと考えています。

【記者】

倫理規定の遵守宣誓について、どのような形で行うのですか。また、守らなかった場合のペナルティはありますか。

【市長】

ペナルティは特に設けませんが、宣誓そのものに重い意味があると考えています。部長級昇級時に、私に対して直接宣誓してもらう形を想定しています。宣誓は形式的なものではなく、倫理意識を改めて確認する重要な行為になると思っています。

【記者】

倫理委員会の報告では、不当な働きかけに適切に対応した職員を守るために、マニュアル策定や外部相談窓口の設置が提案されていましたが、今回の再発防止策には含まれていないように見えます。検討はされたのでしょうか。

【市長】

今回の再発防止策は、まず倫理規定違反の再発を防ぐことに重点を置いています。そのため、まずは基本的な徹底を図っていく方針です。

【総務部長】

ご指摘の内容はすべて検討しています。現時点では発表していませんが、実効性のあるものを今後取り入れていきたいと考えています。

【記者】

ハンドブックは、どのようなものを想定していますか。予算をかけて新たに作るのでしょうか。

【総務部長】

ハンドブックはすでにあるものを見直す形を考えています。内容としては、不当な働きかけの記録制度や公務員倫理に関する事例、働き方制度などを網羅した実践的なものを目指しています。

【記者】

部長級研修は 11 月から 12 月にかけて実施予定とのことですが、スケジュールは確定していますか。

【総務部長】

現時点では 11 月下旬を想定していますが、議会の日程などもあり調整中です。講師の依頼先についても検討中です。

【記者】

他の取り組みも大まかなスケジュール段階という理解でよいでしょうか。

【総務部長】

市長からも発言があった通り、できるものから順次進めていく方針です。ハンドブックも 4 月までの予定ですが、可能であれば今年度中に作成したいと考えています。公表は、新年度（4 月以降）に倫理委員会への報告とあわせて行う予定です。

【記者】

シニア世帯向けの「まんぷく券」について伺います。前回の子育て世帯向けへの実施時には転売の問題がありましたが、今回は被害や新たな対応策はありますか。

【農政企画課長】

報道後に 2～3 件ほど転売の報告がありましたが、出品サイトに通報し、削除対応を行っています。

【記者】

子育て世帯とシニア世帯を対象に取り組みを行ったが、今後、一定所得以下の世帯などを対象に、米の購入券の配布を検討する予定はありますか。

【市長】

現時点では予定していません。子育て世帯向けは、育ち盛りの子どもたちに米を食べてもらい「米離れ」を防ぐ目的で実施しています。また、シニア世帯向けは、生活費に占める食費の割合（エンゲル係数）が高いことから、支援対象としました。

今後は、米価の動向や社会状況を見ながら、必要に応じて対応を検討していきます。

【記者】

福いいネニュースで紹介されたお米の取り組みについて伺います。規格外野菜の企画と関係があるとのことでしたが、このお米はパッケージを使ってこども食堂に送っているのですか。

【市長】

お米は米農家の方々からのご厚意で、寄附いただいたものです。野菜の場合は、こども食堂に必要な野菜を聞き取りしたうえで、農家さんとのマッチングを行っています。寄付いただいたお米はほとんどが新米で、子どもたちにたくさん食べてもらいたいという生産者の純粋な思いから成り立っています。

【記者】

この取り組みは継続的に行われているのですか。

【農政企画課長】

もともとは規格外野菜を子ども食堂に届けられないか、という発想から始まりました。米農家の方からも「古米や新米を提供したい」という申し出が多く、実際に先月から準備を進め、活動を本格化させました。1 か月でトータル約 1 トンのお米が集まりました。提供の申し出があると、チャットツールで情報を共有し、子ども食堂からの希望を受けて、抽選や先着で配分を決定します。その後、農家と子ども食堂が直接連絡を取り合い、受け渡しを行っています。当初は「規格外野菜」を想定していましたが、結果的に新米の寄付も非常に多く集まっています。

【記者】

新米の提供が予想以上に多かったとのことですが、今後、規格外野菜についても有効活用の可能性があると思います。改めて、市長としてこの取り組みへの思いをお聞かせください。

【市長】

この企画は、農政企画課とこども育成課の若手職員が発案したもので、食品ロスを減らし、何かに役立てられないかという発想から始まりました。その対象としてこども食堂を選び、部局を超えて相談しながら実現したものです。こども食堂や地域でこどもを見守り育てることは、市のこども政策の柱の一つであり、このように有効活用をして必要とする人に喜んでもらえる仕組みを若手職員が作ってくれたことを本当にうれしく思います。

【記者】

この規格外野菜の仕組みは、もうすでに始まっているということによろしいですか。

【市長】

はい。収穫の時期によって採れる野菜は異なりますが、規格外の野菜は常に一定数発生しますので、随時出荷・提供している状況です。

【農政企画課長】

実績としまして、これまでにミニトマト約 4.4 キロと、キュウリ 150 本の提供があり、それらのマッチングが成立しています。

【市長】

季節ごとにとれる野菜が違いますが、この仕組みを活用してうまく流通できるのは嬉しいです。

【記者】

「福井市版 20%ルール」について伺います。実施から 1 年ほど経ちますが、市長としてどんな成果を感じていますか。

【市長】

若手職員が自らテーマを考え、仲間を集めて行動するようになったのが大きな成果です。20 代～30 代の職員が中心となって 17 のテーマで活動しており、職員のモチベーション向上や、横のつながりの強化にもつながっています。活動内容は多様で、自動運転車の導入検討のように時間がかかるテーマもあれば、防止ポスター制作などすぐに取り組めるものもあります。今後は、節目ごとに活動を紹介できる機会を設けたいと考えています。

また、来年度は「チャレンジ予算」の枠を設け、グループごとに提案・要求できるようにする予定です。研究や調査など予算を伴わない活動も含め、意欲的な職員が積極的に取り組める環境を整えていきます。若手職員が新しい発想で動いてくれることを非常に嬉しく思っています。組織に新しい風を吹かせる良いきっかけになっており、20%ルールを設けて良かったと感じています。